

平成 28 年度京都市中央卸売市場第一市場運営協議会 会議録

日 時 平成 29 年 3 月 22 日（水）午後 1 時 00 分から午後 2 時 15 分まで

場 所 京都市中央卸売市場第一市場 関連 10 号棟大会議室

出席委員 21 名

京都市中央卸売市場協会	会 長	池本 周三（会長職務代理者）
市民公募委員		石倉 紘子
京都青果小売商組合連合会	会 長	石塚 清三
京都青果合同株式会社	代表取締役社長	内田 隆（会長職務代理者）
大京魚類株式会社	代表取締役社長	大石 光二
京都中央総合食品協同組合		大谷 啓子
京都水産物小売団体連合会	会 長	岡本 勲
京都市中央卸売市場関連事業者連合会		小野 博子
京都野菜卸売協同組合	理 事 長	久世 明
京都大学大学院農学研究科	准 教 授	工藤 春代
住みよい京都をつくる婦人の会	副 会 長	佐川 早苗
京都市中央卸売市場関連事業者連合会	会 長	澤田 利之
京都塩干魚卸協同組合	理 事 長	辻 泰三
京都中央市場青果卸売協同組合	理 事 長	中川 恵司
市民公募委員		中島 醇子
京都大学大学院農学研究科	教 授	新山 陽子（会長）
京都中央総合食品協同組合	理 事 長	野村 憲司
京都塩干魚卸協同組合		橋本 玲枝
株式会社大水京都支社	支 社 長	濱崎 徹
京果労働組合	執行委員長	松田 晃
大京魚類株式会社労働組合	委 員 長	山本 尚志

欠席委員 4 名

新日本婦人の会京都府本部	副 会 長	魚山 栄子
市民公募委員		浦 詩織
全国農業協同組合連合会京都府本部	本 部 長	宅間 敏廣
京都市地域女性連合会	常 任 委 員	中野 比佐子

- | | |
|------|--|
| 議題 1 | 「京都市中央卸売市場第一市場マスタープラン（平成 28 年度版）」の取組状況について |
| 議題 2 | 第一市場におけるごみ減量の取組について |

議題3 市場施設再整備の進捗状況等について

【議題1】 「京都市中央卸売市場第一市場マスタープラン（平成28年度版）」 の取組状況について】

「京都市中央卸売市場第一市場マスタープラン（平成28年度版）」の取組状況について、事務局から説明。

（委員）

- 今年から市場整備が本格化している。本日は、市民公募委員の皆様も御出席いただいているので、第一市場の再整備について、場内事業者と開設者が協力して取り組んでいることを紹介してほしい。

（事務局）

- 卸売市場を取り巻く環境は大変厳しい状況となっている。そのため、より競争力のある市場を目指していくことが必要であると考えている。現在取り組んでいる施設の再整備もその一つだが、場内事業者のお商売や経営面の取組についても、開設者として支援をしていきたいと考えている。

施設の再整備にあたっては、これまで460回以上にわたり場内事業者の皆様と協議を続けており、引き続き、強い市場になるよう努力をしていきたい。

（委員）

- 市場の競争力を強化して、市場を経由した生鮮食料品が市民の台所に上手く届くことが大事だと思う。施設整備が終わってからではなく、整備しながらも新しい販売の状況を作っていくことが大事だと思う。

【議題2】 第一市場におけるごみ減量の取組について】

第一市場におけるごみ減量の取組について、事務局から説明。

（委員）

- ごみ問題は大きな課題であると認識している。業界としても協力していく。

（委員）

- ごみの処分場が一杯になってきている状況を踏まえて、搬入する量を減らす取組を行っていると思っているが、改めて、何故ごみ減量の取組が必要かを教えてほしい。

（事務局）

- ごみ減量の問題については、排出段階でリサイクル等の仕分けをしてもらうこと

が必要であると考えている。そのためには、まず事業者の理解が必要である。野菜ごみの分別は、最終的には飼料化され豚等の餌として活用される。現在、第一市場は、市内最大のごみ排出業者である。既に業界として分別を行っていただいている魚あらに加えて、新たに野菜ごみの分別を実施していくことで、更なるごみ減量に繋げていきたいと考えている。

(委員)

- 既に実施している発砲スチロールの分別・リサイクルについて、容積換算をしているのか。それとも重量換算をしているのか。

(事務局)

- 発砲スチロールについては、積込みの容積換算をしている。

(委員)

- 実際の積込み重量は軽いケースもあるので、ごみ排出量の算定においては検討をお願いしたい。また、市場内の書類の電子化を進めることで、更なるごみ減量が図れると思う。

(委員)

- 普段購入している魚も、調理をすればその半分はごみとして捨てている。特に、夏場は、魚のごみは匂いもきつい。各家庭で生ごみ処理機等を導入できれば、魚の消費量拡大につながると思う。

(委員)

- 2年程前、クリーンセンターへ見学に行った際、まだ賞味期限が残っている食材が山積みで捨てられているところを見かけた。まだ、食べることができるものを捨てているのを見ると、何とかならないものかと考えてしまう。

(委員)

- 市場から出たものかどうかはわからないが、産地で問題が発生した食材などは、産地からの要請で廃棄処分とせざるを得ないものもある。

(委員)

- 資料にあるデータを見ても、取組を上手く進めることができれば、更なるごみの減量が図れると思うので、しっかりと取り組んでほしい。

【議題3】 市場施設再整備の進捗状況等について】

市場施設再整備の進捗状況等について、事務局から説明。

(委員)

- 夏の鰻の時期など、移転については業界の繁忙期を避けてほしい。

(事務局)

- 施設の再整備の期間中に、どれだけ上手く商売ができるかが課題であると認識している。整備期間中にお客様を逃すことがあってはならないと考えている。そのため、水産の移転時期は、繁忙期を避ける段取りを想定している。鰻の入荷時期や年末を避ける必要がある。

スケジュール全体の話で言うと、市場を取り巻く環境が大きく変化していることから、工事期間を出来るだけ短くする必要があると考えている。可能な限り、前倒しで整備を進めていけるよう努力していく。

(委員)

- 市場を取り巻く環境の変化が激しい。
荷下ろしに時間がかかる市場は、工事期間中であっても、産地から敬遠される。そうなれば取扱量が減少するので、産地からの荷下ろしがスムーズにいくよう御配慮をお願いする。

(委員)

- 特に、青果棟については、超長期にわたる整備となる。是非、その間にも取扱量が減ることなく、伸びていくような工夫をお願いしたい。

【その他】 第一市場敷地における土壌汚染対策について】

京都市議会における「第一市場敷地における土壌汚染対策」について、市議会における議論を事務局から報告。

(事務局)

- 現在開会中の京都市議会本会議において、議員から「第一市場敷地における土壌汚染対策」についての御質問があった。具体的には、御自身の調査により現在の青果1・2号棟敷地には、以前大阪ガスの施設が稼動していたことが明らかになったが、東京都の豊洲市場のような心配はないか、調査すべきでは、という趣旨の質問であった。

それに対して、副市長から、「大阪ガスの施設があったことは周知の事実であること」、「青果1・2号棟の床面は、土壌汚染対策で定められている以上の厚さの舗装がされていること」、「当該敷地における地下水の利用はないこと」、「以前実施した周辺地域の地下水調査でも異常はなかったこと」等から、第一市場で取り扱う食材の安全性については、全く問題がないことを答弁させていただいた。

過去に市場の敷地のどの部分がどのような使われ方をしていたのかは把握している。今後、土壌汚染の可能性のある部分については、法に基づいて万全の措置を講じていくので、引き続き御理解をお願いしたい。

(委員)

○ 引き続き、法に基づき、しっかりとした対応をお願いする。

(委員)

○ 土壌汚染の関係については、風評被害が発生しないようにしてほしい。

(以上)